

# DM2000 V2.2 追補マニュアル

DM2000 システムソフトウェア V2.20 では、V2.00 から以下の変更と補足がございます (V2.11 までの変更点も含まれます)。

## V2.20 での変更点と補足

### □ Add-On Effects パッケージの追加 (178、181 ページ)

以下の Add-On Effects パッケージが利用可能になりました。

- AE041 Surround Post Package
- AE051 Vintage Stomp Package

これに伴い、エフェクトライブラリーの 53 番～67 番は、Add-On Effects を追加するためにプリセットエフェクトとして確保されます。インストールしていないエフェクトはグレー表示となり使用できません。

今回 Add-On Effects 用に確保されたエフェクトライブラリーは、以下のとおりです。

No.	プリセット名	タイプ
62	Room ER	ROOM ER
63	Auto Doppler	AUTO DOPPLER
64	Field Rotation	FLD ROTATION
65	Max100	MAX100
66	Vintage Phaser	VNTG PHASER
67	Dual Phaser	DUAL PHASER

Add-On Effects パッケージについての最新の情報は、ヤマハのウェブサイトでご確認ください。

ヤマハウェブサイト：<http://proaudio.yamaha.co.jp>

### □ GPI にトリガーソース追加 (268、308 ページ)

GPI 出力のトリガーソースとして、以下のパラメーターが追加されました。

xxx ON TALLY: 該当するチャンネルが ON になっている間だけ、トリガーがアクティブになります。

また、308 ページの「トリガーソース & ターゲットリスト」の OUTPUT に以下のパラメーターが追加されます。

#	Source
398	CH1 ON TALLY
	:
493	CH96 ON TALLY
494	BUS1 ON TALLY
	:
501	BUS8 ON TALLY
502	AUX1 ON TALLY
	:
513	AUX12 ON TALLY
514	MTX1 ON TALLY
	:
517	MTX4 ON TALLY
518	ST ON TALLY

### □ DM2000 Editor のバージョンについて

DM2000 Editor (Studio Manager) を使用して DM2000 本体をコントロールする場合は、DM2000 Editor V2.1.2 以上 (Studio Manager V2.1 以上) にバージョンアップしてお使いください。

お手持ちの Studio Manager CD-ROM のバージョンが X5401B0 でない場合は、ヤマハのウェブサイトから最新版をダウンロードしてください。

<http://proaudio.yamaha.co.jp>

## V2.11 での変更点

### □ Y96K カードと MY16-mLAN カードに対応 (70、352 ページ)

プラグイン DSP カード Waves Y96K(V2.10 で対応) と mLAN インターフェースカード MY16-mLAN に対応しました。また、mLAN の MIDI 仕様に合わせて、SLOT1 の MIDI ポートがマルチポートからシングルポートに変更されました (ポート 1 ~ 8 を選択する必要がなくなりました)。

対応カードの最新情報、および他のカードと組み合わせて何枚まで挿入できるかは、ヤマハのウェブサイトでご確認ください。

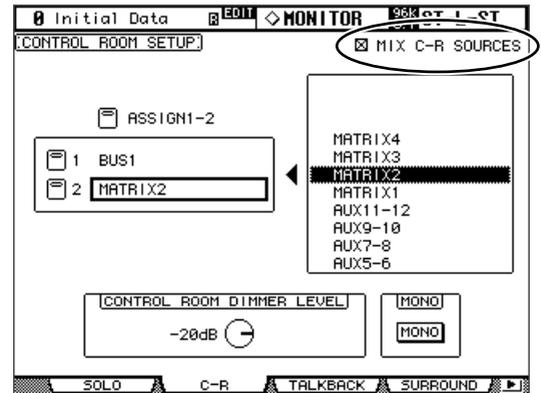
<http://proaudio.yamaha.co.jp>

## V2.10 での変更点

### □ コントロールルームモニターに MIX C-R

SOURCES パラメーターを追加 (160 ページ)

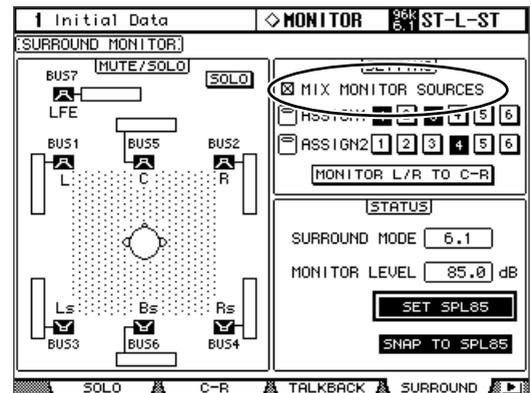
CONTROL ROOM SETUP ページに、「MIX C-R SOURCES」パラメーターが追加されました。V2.0 ではモニターソースに 2TR D1、D2、D3、A1、A2 のどれか一つと、その他 (STEREO、ASSIGN1、ASSIGN2) を同時に選択できましたが、このパラメーターをオフにすると同時には選択できなくなります。



### □ サラウンドモニターに MIX MONITOR SOURCES

パラメーターを追加 (161 ページ)

SURROUND MONITOR ページに、「MIX MONITOR SOURCES」パラメーターが追加されました。V2.0 ではモニターソースに BUS と同時に ASSIGN1 または ASSIGN2 を選択できましたが、このパラメーターをオフにすると同時には選択できなくなります。



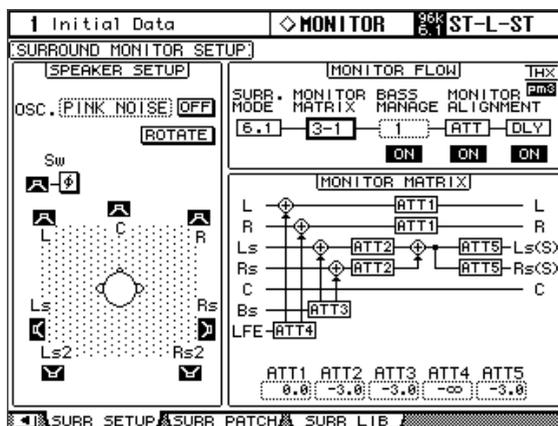
## □ サラウンドモニターに THX プリセットを追加 (162 ~ 164 ページ)

サラウンドモニター設定のベースマネージメントに、THX pm3 モニターシステム用のプリセットが追加されました。また、サラウンドモニター設定にいくつか補足がありますので、該当ページを以下のようにお読み替えください。

### サラウンドモニターの設定

スピーカーのセットアップ、モニターマトリクス、ベースマネージメント、モニターアライメント等のサラウンドモニター設定は、SURROUND MONITOR SETUP ページで行います。

- 1 MONITOR [ DISPLAY ] 併ーで SURROUND MONITOR SETUP ページを表示します。



- 2 カーソルキーでパラメーターを選択し、パラメーターホイール、[ INC ] [ DEC ] 併ー、[ ENTER ] キーで設定します。

**SPEAKER SETUP** : サラウンドモニタースピーカーの音量バランスを調整するパラメーターです。OSC (オシレーター) を選択し、PINK NOISE、500-2K (500Hz ~ 2kHz BPF のピンクノイズ) \ 1K (1kHz のサイン波) \ 50Hz (50Hz のサイン波) から選んで設定します。[ ON ] [ OFF ] ボタンはオシレーターをオン / オフします。オンのとき、オシレーターは - 20dB の信号をアイコンが反転表示されているサラウンドチャンネルに出力します。オシレーターの出力はスピーカーごとにオン / オフできます。カーソルキーでスピーカーアイコンを選択します。LFE チャンネル信号の位相は [ SW ] フェーズボタンで反転できます。[ ROTATE ] ボタンがオンのとき、オシレーター信号は各スピーカーから右回りの順序で次々に出力されます (5 秒間隔で各 3 秒の信号を出力します)。  
**SURR. MODE** : SURROUND MODE ページ ( 97 ページ参照 ) で選択したサラウンドモードを表示します。

**ノート** : システムソフトウェア V2.1 より前の DM2000 で、サラウンドモードを 6.1、モニターマトリクスモードを 6.1 にしてモニターしていた場合、V2.1 では正しく再現できないことがあります。

**MONITOR MATRIX** : サラウンドモニターのマトリクスを選択します。

6.1 サラウンドモードでは、6.1、5.1、3-1、ST のいずれかのモードが選択できます。

5.1 サラウンドモードでは、5.1、3-1、ST のいずれかのモードが選択できます。

3-1 サラウンドモードでは、3-1 または ST を選択します。

ダウンミックスのモニターマトリクスを選択すると、ATT パラメーターで信号をアッテネートできます。

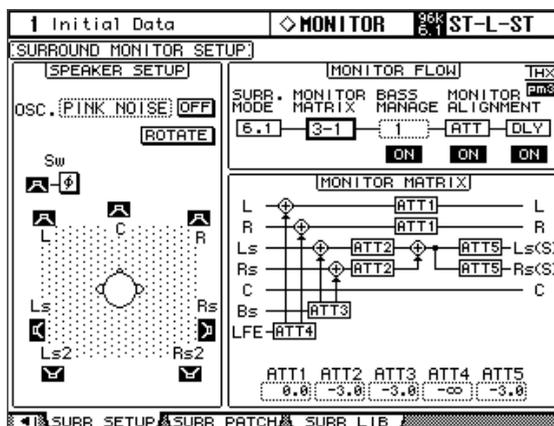
ステレオモードでもサラウンドモニターは使用できますが、モニターマトリクスは ST に固定されます。

**ノート** : モニターマトリクスモード = 3-1 を選んだ場合は、次の 3 つのアッテネーション量を同じ値に設定してください。

- ・ サラウンドモード = 3-1 の ATT1
- ・ サラウンドモード = 5.1 の ATT4
- ・ サラウンドモード = 6.1 の ATT5

これらの ATT はダウンミックスのためのアッテネーターではなく、Ls、Rs、Ls2、Rs2 のスピーカーの再生ボリュームを下げるためのモニター調整用のアッテネーターとして利用します。

たとえば、サラウンドモード =6.1、モニターマトリクス =3-1 を選んだ場合は、以下のような画面になります。



・ BASS MANAGEMENT( ベースマネージメント )

サラウンドモニターのチャンネルごとのフィルター / アッテネーターの設定を、用途や環境に応じて 8 種類のプリセットから選びます。選択可能なプリセットは、次のとおりです。

プリセット		パラメーター				
No.	タイトル	HPF1/2/3	LPF1	LPF2	ATT1/2	AMP
1	DVD LFE80Hz	80-12	80-24	80-24	0	10
2	DVD LFE120Hz	80-12	120-42	80-24	0	10
3	Movie LFE80Hz	80-12	80-24	80-24	- 3	10
4	Movie LFE120Hz	80-12	120-42	80-24	- 3	10
5	Bypass	THRU	THRU	MUTE	0	0
THXD	THX DVD	80-12	120-42	80-24L	0	10
THXF	THX Movie	80-12	120-42	80-24L	- 3	10
THXM	THX Music	80-12	120-42	80-24L	0	10

ATT1:LRとLsRs間のレベル差を調整します。

ATT2:CとBs間のレベル差を調整します。

AMP:LFEチャンネルのレベルを補正します。

HPF1 ~ 3:各スピーカーの再生可能な周波数帯域がサブウーハーの信号と干渉しないように、低音域の信号をカットします。

LPF1 ~ 2:サブウーハーの再生可能周波数帯域が他のスピーカーと干渉しないように、必要に応じて高音域の信号をカットします。

ノート:

- ・ プリセット THXD/THXF を選択した場合、各パラメーターは固定されていて変更できません。
- ・ プリセット THXM を選択した場合、AMP は 10dB と 0dB に切り替えられますが、その他のパラメーターは固定されていて変更できません。

ベースマネージメントの各パラメーターの可変範囲は、次のとおりです。

パラメーター	範囲
HPF1/2/3	THRU, 80-12, 80-12L, 80-24, 80-24L
LPF1	THRU, 80-24, 80-24L, 120-42
LPF2	THRU, 80-24, 80-24L, MUTE
ATT1/2	0 ~ - 12dB
AMP	0 ~ + 12dB

HPF1/2/3、LPF1/2 の設定値は、カットオフ周波数 / カットオフ特性を表します。たとえば設定値 '80-12' は カットオフ周波数 = 80Hz、カットオフ特性 = - 12dB を意味します。

“ L ” の付いた設定値はLinkwitzフィルター、それ以外の設定値はButterworthフィルターです。

## 各プリセットの解説

### 【1】 DVD LFE80Hz

DVD-Video 制作に適したプリセットです。LFE の再生帯域は、~ 80Hz に設定されています。このプリセットを使用した場合でも、LFE のマスターソースには外部機器で LPF(  $f_c=80\text{Hz}$ 、 $-24\text{dB/oct}$  )をかけておくことをおすすめします。

DVD-Audio や SACD などの音楽作品をモニターする場合は、LFE のレベル( AMP )や LPF( LPF1 )を 0dB や THRU などに適宜変更してください。

また、DVD プレーヤーやデコーダーによっては、LFE の出力ゲインがあらかじめ +10dB に設定されている場合があります。そのような機器からの出力をモニターする場合には、LFE のレベル( AMP )を 0dB に変更してください。

### 【2】 DVD LFE120Hz

DVD-Video 制作に適したプリセットです。LFE の再生帯域が ~ 120Hz に設定されている以外は、【1】と同じです。DVD-Video に記録される一般的な LFE 信号の上限周波数( 120Hz )までモニターしたい場合は、このプリセットをお使いください。

### 【3】 Movie LFE80Hz

モニターマトリクスモードが 5.1 または 6.1 のときのサラウンドチャンネルの再生レベルが -3dB に設定されている以外は、【1】と同じです。映画制作に適したプリセットです。

このプリセットを使用した場合でも、LFE のマスターソースには外部機器で LPF(  $f_c=80\text{Hz}$ 、 $-24\text{dB/oct}$  )をかけておくことをおすすめします。

### 【4】 Movie LFE120Hz

モニターマトリクスモードが 5.1 または 6.1 のときのサラウンドチャンネルの再生レベルが -3dB に設定されている以外は、【2】と同じです。映画制作に適したプリセットです。

### 【5】 Bypass

ベースマネージメントだけでなく、LFE のレベルおよび LPF、サラウンドチャンネルのレベルなどのすべての機能をバイパスしたいときにご使用ください。

ベースマネージメントだけをオフにしたい場合は、別のプリセットを選択してから、BASS MANAGEMENT の ON/OFF ボタンをオフにしてください。

## THX プリセット

以下のプリセットは、THX<sup>TM</sup> 社に承認された THX pm3<sup>TM</sup> 認証スタジオ( \* )用のプリセットです。これらのプリセットは、ベースマネージメントされたマルチチャンネルオーディオを正しく再生するための専用パラメーターからなり、サブウーハーサテライト型のコンシューマーシステムと互換性を保つように設計されています。

**\* THX プリセットは、THX pm3 認証スタジオの明示を許可するものではありません。THX pm3 スタジオ認証プログラムは、最適な音響と映像を表現するために測定されたモニター環境を構築するためのプロセスと設計仕様からなります。詳しくは、THX pm3 のウェブサイトをご参照ください( <http://www.thxpm3.jp/> )**

### 【THXD】 THX DVD

DVD-Video 制作のためのプリセットです。映画制作以外のオーディオコンテンツをミックス/モニターする場合にお使いください。各パラメーターの変更はできません。

### 【THXF】 THX Movie

映画のプリプロダクションのためのプリセットです。映画制作のためのコンテンツ( 映画のプリミックスなど )をミックス/モニターする場合にお使いください。各パラメーターの変更はできません。

### 【THXM】 THX Music

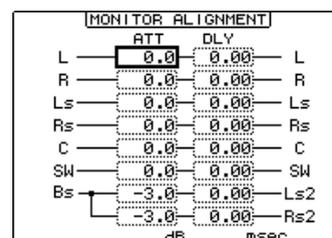
DVD 音楽制作のためのプリセットです。マルチチャンネルのオーディオコンテンツ( DVD-Audio や SACD を含む )をミックス/モニターする場合にお使いください。

LFE ゲイン( AMP )は、+10dB( デフォルト )と 0dB の 2 種類が選択できます。制作するメディアの規格に合わせて選択してください。また、DVD プレーヤーやレシーバー、デコーダーによっては、LFE 出力ゲインがあらかじめ +10dB に設定されている場合があります。

目的のモニター環境( ホームシアターなど )の LFE ゲインが 0dB に設定されている場合のみ、0dB に設定してください。それ以外の場合は、デフォルト設定でお使いください。

・ MONITOR ALIGNMENT ATT & DLY ON/OFF

サラウンドスピーカーすべてのモニターアラインメントの  
アッテネーター/ディレイパラメーターをオン/オフします。  
MONITOR ALIGNMENT の図とサラウンドチャンネルの  
アッテネーター/ディレイパラメーターは、どちらのボタンを  
選択しても表示され、必要に応じてサラウンドチャンネルを  
アッテネート、ディレイさせることによって、サラウンドモニ  
タースピーカーを調整します。アッテネーターパラメーターは  
0.1dB 単位で - 、 - 12dB ~ + 12dB の範囲で設定しま  
す。ディレイパラメーターは 0.02 ミリ秒ごとに 0 ~ 30 ミリ秒の範囲で設定します。



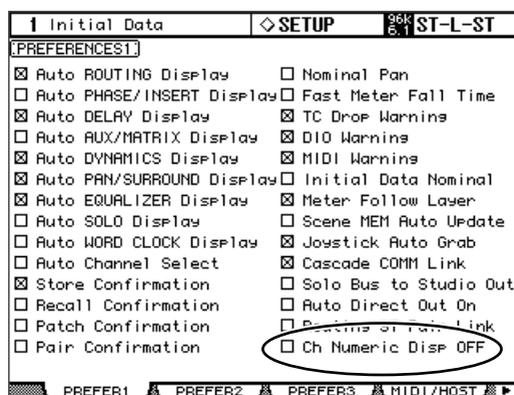
ノート：

- ・ 上記の設定は、モニターする信号に対してだけ有効だということにご注意ください。通常のバスアウトには影響しません。
- ・ サラウンドモード =6.1、モニターマトリクスモード =6.1 でモニターする場合は、他のモードの場合とは別に、上記の設定をする必要があります。

ヒント：ここで設定した内容は、サラウンドモニターライブラリーにストアできます。

□ チャンネルモジュールディスプレイのパラメーター  
値表示をキャンセル (276 ページ)

PREFERENCES1 ページに「Ch Numeric Disp OFF」  
プリファレンスが追加されました。V2.0 では各チャン  
ネルのフェーダーやエンコーダー (パン設定) を操作すると  
チャンネルモジュールディスプレイがパラメーター値の表  
示に切り替わりましたが、このプリファレンスをオンにす  
るとパラメーター値表示に切り替わらなくなります。



□ MY16-C カードに対応 (70、352 ページ)

CobraNet インターフェースカード MY16-C に対応しました。ただし DM2000 のスロットに装着する場合は、以下の制約があります。

- ・ 同時に使用できる MY16-C は 1 枚だけで、使用できるスロットは SLOT1 ~ 3 だけです。
- ・ オーディオ信号の送受信に対応していますが、制御信号には対応していません。

対応カードの最新情報、および他のカードと組み合わせで何枚まで挿入できるかは、ウェブサイトでご確認ください。

<http://proaudio.yamaha.co.jp>

# Memo

